

農業用ハウスの大雪対策について！

平成30年 1月19日

技術支援課普及指導室

- 向こう1ヶ月の気象予報（期間：1月20日～2月19日）（気象庁：H30.1.18発表）
向こう1か月の平均気温は、低い確率60%です。降水量は、平年並の確率40%です。

特に、週明けから月末にかけて強い寒気の流れ込みにより、気温がかなり低く、群馬県北部を中心に、平野部でも降雪量がかなり多くなる見込みです。

- 冬の大気の流れ（資料：東京管区気象台HPより）

冬（12～2月）は、大陸でシベリア高気圧が勢力を強め、太平洋北部ではアリューシャン低気圧が発達して、西高東低の冬型の気圧配置となり、大陸からの寒気の流れ込みます。

一方、冬型の気圧配置が崩れ関東甲信地方の南岸を低気圧が通過する際には、平野部では曇りや雨となりますが、寒気が強いときには雪となり、平成26年2月や平成28年1月のように『大雪』となることもありますので、農業用ハウスにおける事前・事後の対策を徹底してください。

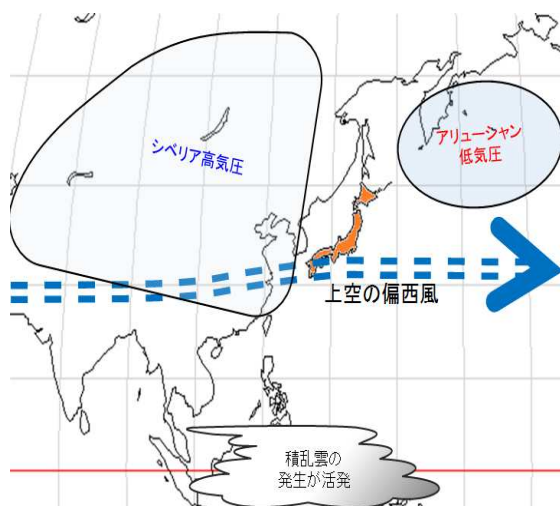


図1 冬の平年の大気の流れ

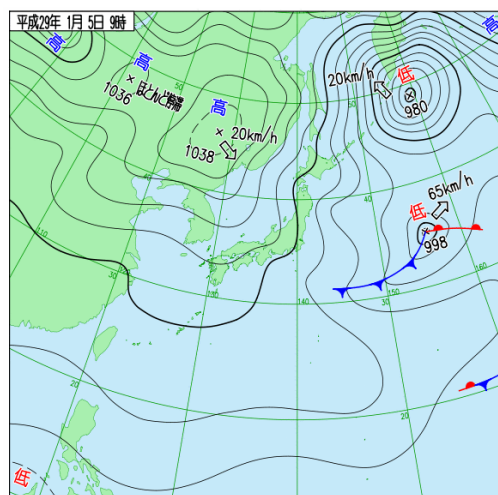


図2 冬型の気圧配置（西高東低）

■ 降雪前・降雪後のチェックを行いましょ

①	最新の気象情報、警報、注意報を常にチェックしていますか
②	ビニールフィルム等被覆資材の取り付け金具の調整、抑えひもの固定、破損部分の補修はできていますか
③	ハウス屋根の外側に設置した、遮光資材などは外しましたか
④	倒壊防止のための中柱は準備できていますか
⑤	暖房機用の燃料は十分確保できていますか
⑥	暖房機が設置してある施設は、可能な範囲で施設内の温度を高め、カーテンを開け、屋根面を暖め、融雪を促していますか
⑦	降雪後、多湿条件下では病害が発生しやすいので適宜換気を行い、天候回復後に防除を行いましたか

■ パイプハウスの耐雪強度と積雪量

一般的なパイプハウスの耐雪強度は16～21kg/m²（パイプ径22～25mmの場合）程度とされています。

一方、実際の積雪による荷重は、雪質（湿った重い雪・乾いた軽い雪）や風によって大きく変わります。特に「南岸低気圧」がもたらす関東地方の雪の場合、もともと比重が重いことに加え、積雪後の降雨によりさらに荷重が重くなることから、20cm程度の積雪であっても耐雪強度を上回ることが想定されています。

■ 園芸施設共済への加入

パイプハウス等園芸施設が倒壊等の被害を受けた場合、自力の再建は経営に大きな負担となりますので、経営リスクの軽減を図るためにも、園芸施設共済等に加入しましょう。